

近世日本の儒教思想

—山崎闇斎学派を中心として

【第一分冊 研究編】

* 目次

第一部 日本儒教についての研究

一 「思想史」とは何か―「日本倫理思想史」に関する方法論的反省 高島元洋 3

(一) 「日本倫理思想史」とは何か―相良亨「日本倫理思想史研究の意義」

(二) ささまざまな「日本思想史」―丸山真男「日本政治思想史一九六五」、黒田俊雄

「思想史の方法―研究史からなにを学ぶか」

(三) 「日本倫理思想史」の定義―和辻哲郎『日本倫理思想史』

(四) 和辻倫理学の問題点と「日本倫理思想史」

「倫理」の定義と和辻倫理学の構成／内部と外部―「自然」と「宗教」の位置

二 日本儒教の特徴 高島元洋 31

(一) 日本儒教をどのような問題設定において理解するか

日本文化の形成のしかた／日本儒教を理解する枠組みについて

(二) 問題設定の妥当性と検討すべき課題

丸山の問題設定〈近代化論的観点〉／相良の問題設定〈比較思想的観点〉〈倫理学・倫理

思想的観点〉

(三) 古学の「人倫」は〈倫理学・倫理思想的観点〉からどのように理解されるのか

存在論(生生観)／人間論(人道)／実践論(拡充)／「人倫」と倫理学

三 日本朱子学論 高島元洋 81

(一) 日本儒教の多様性

思想の多様性／機能の多様性／機能の具体的形態・支持階層における多様性

(二) 近世日本朱子学の一素描

西村天四「九州巡礼」／九州の儒教—亀門学（徂徠学）と楠本端山・碩水（朱子学）／千葉の朱子学（上総道学）—稲葉正齋・黙齋

(三) 日本朱子学の特徴—「敬」の意味をめぐる

「敬」について—問題の所在／朱子学における「敬」の意味／「敬」の多義性／日本朱子学の特徴

※崎門道統略図

四 稲葉黙齋論

大久保紀子

はじめに

(一) 「狂」の資質

「狂」の定義／黙齋の狂態／知と行の懸隔を埋める方法／放蕩／欲に対する自覚と理を求めめる気概

(二) 黙齋の位置

江戸の儒学の形骸化／江戸の儒者達／「平俗」な儒者達／崎門の第三世代

(三) 黙齋の儒学の特徴

「超俗」の儒者達／黙齋の特徴

(四) 上総における黙齋

隠者／礼による啓蒙／上総の門人達

おわりに

【第二分冊 資料編】

第二部 山崎闇齋学派についての資料（解題・注釈・校合）

- 五 稲葉黙齋『姫島講義』 大久保紀子 解題・注釈・校合
 - 六 稲葉黙齋『姫罵口義』 大久保紀子 解題・注釈・校合
 - 七 稲葉黙齋『處士越復傳』 大久保紀子 解題・注釈・校合
 - 八 稲葉黙齋『先君子行實』 長野美香 解題
 - 九 稲葉黙齋『先達遺事』 大久保紀子・長野美香 注釈・校合
 - 十 稲葉黙齋『墨水一滴』 大久保紀子 解題・注釈・校合
 - 十一 林潜齋『稲葉黙齋先生傳』 長野美香 解題・注釈・校合
 - 十二 人名索引 大久保紀子・長野美香
- 第三部 上総道学についての関連論文と資料
- 十三 『孤松全稿』について―『黙齋艸』との関係 大久保紀子
 - 十四 『稲葉家譜』について 長野美香
 - 十五 『迂齋文集』について 長野美香
 - 十六 稲葉迂齋・黙齋年譜 長野美香

あとがき